

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 19 年 9 月 8 日
調査実施の時間	開始 13 時 30 分 ~ 終了 17 時 00 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム花音 _____ (熊本県)
評価調査員の氏名	氏名 _____ 大石 逸子
	氏名 _____ 有働 津由美
事業所側対応者	職名 _____ 管理者
	氏名 _____ 永野 宏之 ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で つけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職 員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19 年 9 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	4372900904
法人名	有限会社 沙蔵
事業所名	グループホーム 花音(カノン)
所在地 (電話番号)	熊本県八代郡氷川町宮原588-2 (電話) 0965-62-2518
評価機関名	NPOまい
所在地	熊本県熊本市馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	平成19年9月8日

【情報提供票より】(19年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 11 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	5 人
非常勤	4 人
常勤換算	7.1

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨軸組み工法 造り	
	2 階建ての 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (80,000 円) <input type="radio"/> 無		
食材料費	朝食	200円	昼食 200円
	夕食	300円	おやつ 100円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八代郡医師会立病院 前田内科医院 坂本病院 上田歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念の通り家族的で設立者の思い、人柄がそのまま「花音」のもつあたたかさ、親しみやすさとなっていました。一人一人を大切にし、生活支援、歌を通しての社会活動、又、事業所としてチャリティー活動に参加されていました。設立者の活動が心から真に伝わる事業所でした。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を真摯に受け止め、社会活動、書類の整備がなされ、組織的に整備されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	2回目の評価で、1回目のとにかく受審することに意義ありから、今回は事業所の活動の振り返りや、積み上げができることを目的に自己評価がなされていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催され、その討議内容を日々の業務や、災害時の対策等にかかされていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月家族へお便りが発行され、一人一人の状況や行動が伝えられ、家族の連絡も密になされていた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の神社への散歩を日課にされ、老人会への参加、また、チャリティー活動の拠点として事業所を開放するなどの取組がなされていた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを大家族としてとらえ、一人一人が家族の一員として個人を尊重し、元気に明るく、楽しく生活できる理念が構築されていました。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングにおいて事例検討会が随時開催され、施設長、副施設長が、理念を具体的にケアに生かすよう指導されていた。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事参加は積極的になされているが、自主的な老人会参加や講演会開催などはなされていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員会議で行うことで、これまでのケアの振り返り、組織体制の見直し、書類等の整備ができた、外部評価の意義を理解されていた。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施され、組織運営の状況報告検討がなされ、地域からの支援方法(消防訓練等)が具体的にみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口との連携は密にされ、施設長は随時相談に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別に毎月お便りが発行され、全体的な内容に個別内容がプラスされ、紙面も工夫されていた。金銭管理も毎月預かり金から出費された領収書と預かり金ノートのコピーを添え報告がなされていた。また、電話や訪問時に、施設長、職員から随時説明報告されている光景がみられた。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置されているが、活用は1回のみであった。家族への説明等で相談はあるが、苦情としてはあがっていない。		家族等からの苦情をくみ取る体制作りが求められる、また、その苦情を生かすことが必要です。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年間に5～6名の退職者があり、ご家族アンケートにもその事の不安が記せられていた。新規採用者の勤務について、利用者の不安がないよう、夜勤時は施設長がつくなど努力されているが、開所時で不安定な体制と考えられるが組織の安定化が必要である。		今後は従業員の定着にむけて、労務管理の改善、コミュニケーションを深めることが必要です。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内トレーニングは、現場指導を中心になされている、外部研修は事業計画が立案されており、それに基づく実施されていた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の関係事業所、協議会、連絡会の出席が、計画的に実施されていた。また、同事業所間のネットワークづくりも積極的になされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時には施設長や介護支援専門員が訪問し、家族・利用者への説明、見学はなされていた。体験入所のシステムはあるが、これまでの体験入所はない		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設長と利用者の音楽隊が結成されており、共に支え合う関係がみられた。また、職員も介護を通して、気づき学びを得ていることを実感している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の役割や楽しみを生活行動や生活歴から見出し、支援されていた。		現在2年目で安定してきているマンネリ化を予防するため、これまでの努力をさらに利用者一人一人の生きがい探しをされ、QOLをあげられるように努力されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人一人のケアプラン、援助計画、評価が丁寧になされていたが、介護支援専門員が独自にプラン作成しており、他のスタッフのとの連携が少なく、本人・家族・他の職員の意見やアイデアが反映されていなかった。		他の職員との連携を深め利用者のために有効に計画がなされることが必要です
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは定期的になされていたが、本人・家族・他の職員との話し合いが記録に反映されていなかった。		記録に基づきカンファレンスを行い、情報の共有化を図ることが必要です。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、外出支援等はなされていた、また、ターミナル期の対応もなされていた。但し外泊・退所支援は不十分であった。		今後、外泊支援、退所支援の取組を期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、専門医の定期受診介助はできていた、緊急時の連携も家族や本人の希望を取り入れなされていた。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで事業所内看取り1名あり、家族への説明も利用者の症状に応じて段階的になされていた。		今後は更に看取りのシステム化、また、職員教育の充実に期待します
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は個人ファイルに管理され、他者から見えないようにされていた、また、写真等はご家族の許可をとり、掲載している。言葉かけも一人一人の適切な対応をなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や希望で外出、買い物等に寄り添う努力がみられた、夜間入浴は業務の流れが主で希望時のみ入浴であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		地元の農作物で、利用者と一緒に調理、準備、後かたづけがなされていた、特に全員がそろって「いただきます」と声かけし、大家族の食事を大切にされていた。
	23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		個人浴で、昼間の入浴時間帯に一人一人のペースで入浴がなされていた、入浴拒否の場合は、納得される説明し、その人のペース作りがなされ、現在入浴拒否はなく全員スムーズに入浴できている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		一人一人の役割を探し、箸を並べる、歌をうたうなど、張り合いのある生活が支援されていた。
	25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		外出支援は、散歩、買い物、歌のサークル活動での外出など工夫されていた。
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		各自の部屋は鍵はなく、利用者の希望で戸を閉めたり、開放したりで、自由になされていた、玄関は夜間と目が届かない時のみ鍵使用で玄関が開くとチャイムで知らせる工夫がなされていた。
	27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		避難訓練が実施され、地元の消防団とも連携ができていた。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人一人の状態に応じて食事の形態、補助食品、食事量や水分量が考えられていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	リビングは明るく、利用者が集える居心地の良さが感じられた、庭が狭いので、プランターで花作り、また、玄関先に椅子がおかれベランダ活用がなされていた。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は、本人や、家族の希望に添い使い慣れた鏡台を持ち込む人、ベッドの人、畳の人と、その人の暮らしが工夫されていた。		